

2021ユニセフ・キャラバン・キャンペーン

令和3年10月29日(金)

講師の先生 公益財団法人日本ユニセフ協会 鈴木 有紀子 様 他

1. 講師の先生は、どのようなことをおっしゃっていましたか。

講師の先生は、ユニセフとは、SDGsにおける健康や福祉、安全な水に対する取り組みや、1〜40条からなる「子どもの権利条約」の実現を目標とした活動を行っているということをおっしゃっていた。また、私たちが貧困を解決できる最後の世代になる可能性があるということで、自分が興味ある分野で解決できることはないかと考えてほしいともおっしゃっていた。

2. 講演を通して、あなたは、どのようなことを感じ、考えましたか。

講演を聴いて、1億人を越える子どもたちが、教育を受けられなかったり、私たちに比べて入ったことのないことでも命の危険にさらされているということを知り、おどろきました。以前から途上国の実態を知っているつもりで、ここまで深刻だと思っていませんでした。私はこの現状を変えることができる世代に生きているので、自分にできることを考えていきたい。

3. 講演を通して学んだことを、今後どのようなことに活かしていきますか。

また、今後どのような行動を心掛けていこうと考えていますか。

ユニセフの募金は、日本人の恩返しから初まったと知った。私の世代ではないとはいえ、ユニセフの活動がなければ、私は産まれてすらいなかったかもしれない。そのため、いままであまり気にとめていなかった募金活動に参加していきたいと思った。また、将来の自分にできることを考えながら生きて、恩返しをしていきたいと思う。